

公益社団法人都城青年会議所

2016年度理事長所信

第53代理事長 真方 誠也

【スローガン】

「一 燈 照 隅」

そして輝け、 J A Y C E E S o u l !

【基本方針】

- 1、魅力ある組織運営力の向上
- 2、J Cの存在意義を示すことのできる会員拡大
- 3、魅力ある人間力の向上
- 4、次世代を担う地域の宝たちへ心と体を育む青少年育成
- 5、未来を見据えた魅力ある地域の創造

【はじめに】

我々が住み暮らす都城市、曾於市、三股町は、圏域人口約23万人を有する南九州における中核経済圏域です。多くの人々が住み暮らすこの圏域の明るい豊かな未来とは如何なるものなのでしょうか。45名のチャーターメンバーで創立された都城青年会議所は、この圏域の明るい豊かな未来を願い、いつの時代も、ここに住み暮らす人々の笑顔、そして、未来を担う子どもたちの夢を育みながら、52年間実直に活動をしてきました。世の中は変化し続けるものであり、戦後から今日まで、混沌、混迷と呼ばれる時代の中を、その時々で、時代に即した運動を展開し続ける事が出来たのも、そこに多くの英知と勇気と情熱を注ぎ込み、青年期という貴重な時間をJ Cに費やしてこられた先人達がいてくれたからであります。その信用の積み重ねによって、今日、我々がこうして多くの活動をさせて頂けるという事に、あらためて深く感謝をしなければなりません。

52年前と比べれば、人々の生活は大変豊かになったのではと感じる今日ですが、それでも多くの社会問題が山積しており、さらには、新聞で大きく報道されるような酷い事件であっても、数ヶ月経つと、どれがどれと思い出せない程、日々多くの悲しい出来事が起こる時代です。むしろ、便利な世の中になるにつれて、人々の心の豊かさは、失われていっているようにさえ感じます。

そのような、現代を生きる我々にとって、家庭や企業、地域が、今必要としているもの、それはきっと、人間的な心の豊かさと魅力を兼ね備えた『たのもししい人間』なのではないでしょうか。企業や組織の社会貢献、そして、家庭や地域の将来を語る人間が、近所の方の顔や名前も知らず、道端でゴミを捨てたり、外で節操のない行動をとったりしては、何の説得力も持ちません。誠意のない上辺だけの言動や行動では、人々の心は動かせないのです。

人は一人では生きていけません。困っている人がいたら助ける、お互い様、お陰様、助け合い、支え合う、そんな昔から言われる日本人らしい共存、共生の考えや感性を持って生きる事ができる人は魅力

的ではないでしょうか。我々に与えられている時間には、限りがあります。その中で、身近な人々から頼られる存在になる為には、自分の為に使う時間と同じ位、誰かの為に使う時間をつくれるという事が、とても重要です。周囲への関心を常に持ち、自分というものを磨き高め、その中で人生における座標軸を確立し、心から、魂から、身近な人々の幸せを願い、行動する事のできる、そんな心の豊かさと人としての魅力を兼ね備えたたのもしい人間こそ、人々の道を指し示す事のできる光明となれるはずです。そして、そのような人間達が織り成す真心のこもった運動こそが、真の市民意識変革運動となり得るのです。

2016年、この圏域の明るい豊かな未来を燦々と照らす事のできる、より輝きと説得力を増した、たのもしいJAYCEEとして、ともに活動してまいりましょう。

【魅力ある組織運営力の向上】

公益社団法人として5年目を迎える今、この冠に恥じることなく、これからも公益法人としての運動、活動を継続していく為には、法人としての組織運営が、対外だけでなく、対内においても、より理解の得られる運営を目指すべきであると考えます。2015年までの経験や刷新の成果を経て、2016年度は、さらに安定的な法人運営を行う事が可能となりました。説得力のある、そして魅力ある組織であり続ける為には、会員のみならず、会員の身近な方々からの理解も得られる組織運営が求められます。

その為には、公益性をしっかりと担保しながらも、公益、共益、それぞれの事業内容はもちろんの事、事業数、スケジュール等の見直しを行い、財政を含めて、現状の組織力と見比べながら、全体的なバランスを取っていく必要があります。変えるべきところは変え、より効果的な組織運営を目指しながらも、公益社団法人として、しっかりとした組織運営が行えるよう財政、法令遵守の面において、さらなる強化を図りながら、事業ごとの質を高めてまいります。会員一人ひとり、そして、その身近な方々にもより共感して頂ける運営を行う事は、会員の参画意識向上のみならず、何よりも一人ひとりの組織への帰属意識を高め、ひいては自らが組織の広告塔となって、それぞれの運動、活動の発信力向上に繋がり、LOM全体のブランディングにも大きく貢献するはずです。その先に、我々が目指す、圏域の方々から、たよられる唯一無二の団体、魅力ある都城青年会議所が構築されるものと確信します。

【学び舎としての組織風土の再構】

私が思う青年会議所の存在は、まちづくり団体という認識ではありません。青年会議所は市民意識変革運動を展開しており、市民意識変革を促す会員自身が、多くの知識と見識、心豊かな人間性を兼ね備えなければ、身近な方々への理解は得られないと考えるからです。松下幸之助氏の言葉に、「松下電器は、人をつくる会社です。あわせて電気製品を作っています」というものがあります。また、松下氏は、「どんなに完備した組織をつくり、新しい手法を導入しても、それを生かす人を得なければ成果もあがらず企業の使命も果たせない」とも述べています。青年会議所もまさに同じ事が言えるのではないのでしょうか。単年度制をあえて実施している所以は、まさにそこにあると考えます。会員の成長こそ地域の活力に繋がるからです。最近あまり聞かれなくなりましたが、入会当初、先輩方には「JCでは沢山失敗をしなさい。JCは失敗しても良いところだから。そして、他で失敗しないようにしなさい」とよくおっしゃって頂きました。そして、多くの仕事を任せて頂きながらも、その裏では、みんなで支えてくれていました。だからこそ、思いっきり失敗を恐れずに任せて頂いた仕事をやる事が出来ましたが、最近では、失敗は寧ろ好ましくない、もしくは、人に任せっぱなしというような組織風土があるのではないのでしょうか。常に周囲への関心を失わないリーダーであり、会員でなければならないと感じます。

また、かつては、「委員長の為」という言葉も多く聞かれました。何故か、どの組織でも、会社でも例えばPTA活動でもそうですが、その役をする人間がいないと組織が成り立たないからです。その人間がいてくれる事で自分たちの活動ができる事に敬意と感謝の気持ちがあったからこそ、JCでもよ

く言われていたフレーズではないかと感じます。その風土も薄れつつあるような気がします。今一度、会員が萎縮せず、意欲を持って多くの機会に挑戦、参画し、それをみんなで支え合う組織風土を再構しなくてはならないと考えます。青年会議所活動も企業活動も、その他の地域活動においても、そこに携わる人がいなければ、何もできません。人こそ宝であり、責任世代である我々こそが未来のこの圏域を明るく照らす光明にならなければ、この圏域は衰退の一途を辿るばかりです。会員がお互いに切磋琢磨し成長し合える組織こそが、何より組織活性化に繋がると考えます。会員が、思いっきり失敗できる学び舎としての規律ある組織風土を構築しなければならないと考えます。

【JCの存在意義を示すことのできる会員拡大】

会員であるJAYCEEの成長はもちろんですが、同時に新たなJAYCEEの拡大にも時間を割かなくてはなりません。JAYCEEを増やす事、すなわち、この圏域の大きな活力になり得る優れた人材を輩出し続ける事が、この組織の使命であり、この圏域の明るい豊かなまちづくりに貢献し続けるからです。私が在籍した中では、2007年をピークに130名弱いた会員数は、8年間で約半数にまで減少してしまいました。このままいけば、55周年時には、40名程になってしまいます。公益事業の安定化が図れる今だからこそ、拡大にも多くの時間とマンパワーを費やせる環境を設ける事ができると考えます。JAYCEEの拡大は、今のLOMが急務で取り組まなければならない課題です。

JCがこの圏域において、何故必要なのか。JCが存在していなかったら、この圏域はどのようなまちになっていたのか。都城青年会議所のこれまでの功績と、その効果を検証し、この組織の存在意義と社会貢献度を、明確に打ち出す必要があります。我々会員がこの組織の偉大さとここで得られるかけがえのないものを認識した上で、新たな仲間を集わなければ、効果的な拡大は行えないものと考えます。卒業年度を迎える会員から入会年度の浅い会員を含めた全会員が、この組織の誇りと魅力を共有できたとき、初めて新たな拡大の仕組みづくりが可能となります。

【魅力ある人間力の向上】

今日のような多様化の時代にこそ、どのような変化にも対応できる正しい考え方を身につけた個の確立が必要です。感性豊かな個性づくり、そして、魅力ある個性が、家庭において、企業において、地域において発揮されるならば、明るい豊かな社会づくりに一歩近づいたことになります。そして、今この組織の活動に邁進している周りの人たちに目を向けると、その人が如何に集団を敬い、集団の活動に汗し、会員の幸せを願いつつ行動しているかという当たり前のことが、その人を素晴らしいリーダーにさせているということに気付くのではないのでしょうか。ややもすると、理論集団になりがちなJC活動において、理論を超越した人間的魅力を兼ね備えた指導力の開発を目指し、これからの企業、地域、そして、国家を支えねばならないという自覚と責任を持った、真のリーダーを育む必要があります。これからの地方は、独自で道を拓いて行かねばなりません。我々に今必要とされるのは、未来を創造していく為の志と使命感であります。心の豊かさが失われつつあると感じる今、社会生活のあらゆる面で一人ひとりが創造的な人間として生まれ変わり、今一度、日本人の心を見つめなおし、日本人にあった日本独自の人財育成、日本人の中から生まれた指導力の開発を進めていく時にきております。

そして、自立した都城圏域を確立する為には、圏域の経済活性化が必要です。我々会員も例外ではありません。圏域の企業を活性化することは、すなわち、この圏域の明るい豊かな未来の確立に近づきます。その為には、企業の規模に関係なく公正な自由競争を行っていかねばなりません。人口減少社会では、労働力の投入による経済成長や、今後さらに多くの資本を投入することを前提とした経済成長は不可能です。そして、この環境で近年問題となっているのは、人材の確保、特に若者の就職内定に苦勞する企業が多くあるという事です。就職氷河期の時代からすると考えられない事ではありますが、若い世代の多くの人たちは、企業サービスの質とともに、そこに従事する事で、自分がどのように成長で

きるのか、個人の人生にどのような付加価値を与えてくれるのか、という事を見えています。これからの企業は、生産性の向上を図る為に、技術革新や経営革新、人材育成はもとより、顧客満足度の向上とともに、従業員満足度の向上も併せて取り組む事が重要です。また一方で、世界経済を見渡すと、日本の技術力を欲している国が多く存在します。その国々の中には、今後目まぐるしい経済発展が予測されている国も幾つかあります。世界規模の組織であるＪＣのスケールメリットを活かせば、グローバルな視点での新たなビジネスを創造する事も可能です。青年経済人として会員一人ひとりの能力を向上させ、豊かな創造力、確かな先見性と決断力を磨き、利益追求のみならず、社会貢献できる企業、社会的存在意義のある企業とは何かを考え、自己の成長と共に、それぞれの企業もより魅力ある組織へと変革していかなければなりません。

【次世代を担う地域の宝たちへ心と体を育む青少年育成事業】

社会構造等の変化や、コミュニケーションツールの普及により、子どもたちの心の成長に隔たりが見られるようになり規範意識や責任感、モラルの低下などが問題となっています。我々が小さい時は、いつも公園で多くの友人たちと遊び、その中で人間関係や、物事の分別を学んでいった気がします。今の子どもたちは自由に遊ぶことが困難な環境にあります。かつて無邪気な声たちがこだましていた公園で、その賑やかな声を聞くことは珍しくなっています。子どもたちが自立的個人として自己を確立していく為には、社会生活の中で、多様な人間関係や社会体験、自然体験など、様々な実体験を通じ、自分と周囲とが互いにかかわる活動を積み重ねていくことが重要です。そして、このような場が地域社会に求められています。

本年も、子どもたちの健全な心と体を育む事業として、「きりしまんぢだジュニアトライアスロン大会 in 都城」を実施いたします。青少年育成を主たる目的として地域の方々との連携により、発展を遂げてきた本大会は、我々が行う公益事業の中核事業でもあり、第１０回目という節目を迎える本年度は、これまで携わってこられた方々への敬意と感謝を表すとともに、より安全かつ効率的な大会運営を行い、来場いただいた全ての方々と、多くの感動を共有できる大会にしていきたいと思います。

また、地域社会教育、家庭教育に携わる我々ですが、次世代を担う子どもたちに何を伝えられているのでしょうか。グローバル化が進む近年、多くの子どもたちが将来、海外での就労、もしくは外国の方々と働く時代が来ると予測できます。語学力を身につけさせることも重要ですが、それ以上に、学校では教えてもらえない、もっと大切な情報があるのではないのでしょうか。個人としてのアイデンティティを育まなければ、母国に誇りとプライドをもった海外の人たちとは渡り合えません。我々責任世代である大人たちが、次世代を担う地域の宝たちへ、何を伝えるべきなのか、考えなければならない時にきています。

【未来を見据えた魅力ある地域の創造】

日本創成会議の発表した、２０４０年までの人口減少に伴う自治体消息データは記憶に新しいところですが、全国で８９０余り消滅する自治体があるという中、宮崎県においては、宮崎市、都城市、三股町は、３０％台でその他は、軒並み７０％以上の人口減少というデータになっています。数字的な根拠の信憑性は別として、県内において大幅な人口減少が進んでいくということに、大変な危機感を感じるのは私だけではないと思います。仮にデータ通りだったとして、都城市、三股町の人口が３０％減でとどまったとしても、県内を含む隣接県が同じ状況であれば、経済は廻らなくなるからです。これからのまちづくりは、団体と団体、行政と行政が、個々にそれぞれの事をやっても、功を奏す事はできないと考えます。圏域、または行政区域を越えて、官民の組織が複合的に連携し、地域創造に取り組まなければ、明るい豊かな未来など描けないものと考えます。圏域の人口維持だけでなく、圏外、県外、もしくは国外の方々が多く、この地に訪れる仕組みをハード、ソフト両面から考えていく必要があります。

2015年度、「新5ヵ年計画アクションプラン」の検証を行いました。この計画に新たな具現性のあるアクションプランを盛り込む事を検討していくべきと考えます。調査、分析を踏まえた上で、関係所管や他団体との連携も踏まえて、共にこの圏域の明るい豊かな未来の為に、行動できるより具体的な行動計画を、模索すべきであると考えます。青年らしい新たなグランドデザインの創造が必要です。

また昨年、実現することの出来た「肉と焼酎のふるさと・都城花火大会」は、内外へ広くこの圏域をアピールすることが出来る地域活性化事業として、今後の発展における可能性を大きく秘めた事業です。「ローマは一日にしてならず」。まちづくりも、ひとづくりにおいても、その効果を発揮するまでには時間を要します。我々が行う公益事業も、継続してこそ真の効果を発揮するものと考えます。公益事業の中核事業として確立する為にも、本年も継続しさらなる発展に向けて取り組んでまいります。

【結びに】

ミッキーマウスから始まったウォルト・ディズニーグループが、ディズニー・ワールド・リゾートをオープンさせた時の除幕式での話です。アメリカのフロリダにあるそれは、世界最大のアミューズメントリゾートとして有名ですが、1971年にオープンした際、その除幕式で「ウォルトが生きていてこの開園が見られれば良かったのに残念でしたね」との記者の問いに対して、オープンの数年前に他界したウォルト・ディズニーの共同経営者であった兄のロイ・ディズニーは、こう答えました。「いえいえ、ウォルトが最初にはっきりと見たんですよ。ウォルトが見ていたから、今こうしてあなたが見られているわけです」。

ウォルト・ディズニーグループは、ディズニー兄弟亡き今でも、その精神を引き継ぎ、世界中に夢と希望を贈り続けています。

恒久的な世界平和、明るい豊かなまちづくりを目指して、運動を展開するJCも同じです。都城青年会議所を立ち上げて頂いた先輩方の精神は、52年経った今も、そして、これからも変わることなく受け継がれていかななくてはなりません。

～ That service to humanity is the best work of life ～

「人類への奉仕こそが、人生における最良の仕事である」

JCIクリードの最後にあるこの一文こそが全てを表しています。

我々は、これからも会社や所属する組織、そして家庭や身近な地域の為に、力を発揮できる人間にならなければなりません。

人の命には限りがあります。そして、JCをやれる時間にも限りがあります。だからこそ与えられた限りあるこの命を誰かの為に生かすべきではないでしょうか。誰もが必ずいつかは天に召されます。だからこそ天から与えられた限りある命を煌々と輝かせるべきではないでしょうか。そしてこの与えられた命がいつ潰えようとも、納得して瞼を閉じることのできる格好いい生き様を、子どもたちに見せているんじゃないですか。それこそが真のリーダーたる誠のJAYCEEの姿であると私は信じています。都城青年会議所が、これから先も人財の宝庫として、優れたリーダーを輩出し続けられるよう、そして、会員自身はもちろん、会員の皆様の身近な方々にも、よりご理解の頂ける魅力ある青年会議所で在り続けられるよう一生懸命取り組んでまいります。この学び舎で、青年らしく失敗を恐れずに、みんなで楽しみながら、共に切磋琢磨し互いを高め合ひましょう。